

【理工学部応用生物科学科】

卒業認定・学位授与の方針[ディプロマ・ポリシー]

実力主義の伝統を堅持しつつ、高い専門性と倫理観、国際的な視野を持った生物科学の基礎と応用を習得した人材の養成を目標とし、以下の知識、能力等を身に付け、本学科で定める所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学士（理学）の学位を授与する。

1. 自然・人間・社会に係る幅広い教養を修得し、専門分野の枠を超えて横断的にものごとを俯瞰できる能力。
2. 本学科の学問分野に応じた基礎学力と、その上に立つ専門知識。
3. 修得した専門知識や教養をもとに、自ら課題を発見し、解決する能力。
4. 修得した専門知識や教養をもとに、論理的・批判的に思考し、積極的に取り組むことのできる判断力・行動力。
5. 修得した専門知識や教養をもとに、他者とコミュニケーションをとり、国際的な視野を持って活躍できる能力。
6. 修得した専門知識や教養をもとに、専門分野に応じたキャリアを形成し、自己を管理する能力。

教育課程編成・実施の方針[カリキュラム・ポリシー]

1. 生命の本質を探究する理学とその知見を応用する学際的な分野との連携のもとに、自然・人間・社会に係る幅広い教養を加え、教育・研究を展開し、一つの学問領域や学科のみで解決できない問題に対しては、その枠を超えて共創するとともに、分野横断的に俯瞰した国際的な視点からともに響き合うことにより科学と技術の新しい領域を創造し、新たな価値を創造するという応用生物科学科の基本理念に基づいて、本学科で定める人材育成に関する目的を実現するための学士の教育課程を編成する。
2. 真に実力を身に付けた学生のみを卒業させる「実力主義」の伝統を堅持し、厳格な教育課程を実践する。
3. 段階的な知識の修得を図るため、一般的素養を深めるための「一般教養科目」、各専門分野の基盤をなす「基礎科目」、各専門分野に応じた進路に必要な能力を養うための「専門科目」の3種類の授業科目を体系的に配置する。
4. 「一般教養科目」「基礎科目」「専門科目」では、国際性、コミュニケーション能力、課題発見・解決力、論理的・批判的思考力、キャリア形成力、倫理観を養う内容を含む科目を配置する。
5. 「一般教養科目」では、自然・人間・社会を幅広く俯瞰できる能力、判断力・行動力、自己管理能力を養う授業科目を効果的に配置する。
6. 英語教育においては、少人数クラスや習熟度を考慮したクラスを取り入れ、学習効果を高める主体的な学びを導く教育を行う。
7. 「基礎科目」では、初年次より「基幹基礎科目」、「専門基礎科目」の授業科目を効果的に配置し、併せて学生が自ら学ぶ学修時間を確保し、基礎学力を強化した上で、「専門科目」との接続を図る。
8. 「専門科目」では、細胞生物学、分子生物学、生化学、生物有機化学、生物物理学、環境生物科学の6つの領域を中心として、講義の他に、多くの実験、実習、演習等の授業科目を重点的かつ効果的に組み合わせることで専門知識を深化させ、併せて他の授業科目との関連や学問探求の方法を学ぶ。
9. 学士課程の集大成として、最終学年次に卒業研究を配置する。
10. 教員を目指す学生のために教職課程科目を配置する。
11. 生物科学の分野にとらわれず、幅広く関心を持ち学修できるよう、他学部間・理工学部の他学科間の履修や大学院科目の先行履修を可能とし、学生の学習意欲の向上を図るとともに、多様な学習ニーズに応える教育課程とする。

入学者受入れの方針[アドミッション・ポリシー]

建学の精神と実力主義の伝統に基づく、応用生物科学科の基本理念のもと、

1. 高等学校段階までの基礎知識と思考力、判断力、表現力を備え、専門分野の学習に必要な学力を持つ人、
 2. 将来広く国内外で国際的な視野を持って活躍するための基礎的な素養を身に付けている人、
 3. 自らの考えを表現する力を備え、主体的に多様な人々と協働して学ぶ意欲のある人、
- を多様な選抜方法により広く求める。

【入試形態ごとの入学者に求める能力と、その評価方法】

(A 方式入学試験)

幅広い科目に対する基礎知識と思考力、判断力を持つ人を、大学入学共通テストの得点を用いて選抜する。

(B 方式入学試験)

学科の特性に見合う基礎知識とそれを応用する能力及び思考力、判断力を持つ人を、独自の学力試験（数学、英語、物理又は化学又は生物）の得点を用いて選抜する。

(C 方式入学試験)

理数系科目を中心に幅広い基礎知識と思考力、判断力を持つ人を、本学独自の学力試験（数学、理科）と大学入学共通テスト（国語、外国語）の得点を用いて選抜する。

(グローバル方式入学試験)

本学の特性に見合う基礎知識と思考力、判断力及びコミュニケーションスキルとしての英語力を持つ人を、本学独自の学力試験（数学、物理又は化学又は生物）と英語の資格・検定試験の成績を用いて選抜する。

(学校推薦型選抜（指定校制）)

高等学校段階までの基礎知識と思考力、判断力、表現力を持ち、自ら学ぶ意欲のある人を、書類審査、面接、口頭試問により選抜する。

(学校推薦型選抜(公募制))

高等学校段階までの基礎知識と思考力、判断力、表現力を持ち、自ら学ぶ意欲のある人で本学を第1志望とする人を、書類審査、小論文、面接、口頭試問により選抜する。

(帰国生入学者選抜、外国人留学生入学試験)

海外で身に付けた能力を持ち、自ら学ぶ意欲のある人を、大学入学共通テストの成績、資格・検定試験の成績、小論文、面接等により選抜する。